

ハイライトよねやま 22

(財)ロータリー米山記念奨学会

2002年1月18日発行

1. 寄付金増進、2001年度後半がスタート

今年度も前半を終え、12月末の寄付金収入は10億5000万円となりました。前年同期と比較すると△1.3% (1400万円)減っています。減少幅は縮まったものの、依然として寄付金は減少を続けています。今年度の寄付金収入の目標は18億円です(12月末の達成率58%)。目標まであと7億5000万円です。1月から2001年度後半がスタートしました。例年、後半は特別寄付金収入が低調な時期です。皆様のますますのご支援をお願いします。

2. ほんの少しでも人の役に立つことがしたい ～ 元奨学生からの寄付

昨年11月、元奨学生から寄せられる寄付について調査をしました。把握できた寄付金は、個人では14名から総額505万円。東京学友会からは累計107万円に上りました。

寄付の動機について林恕夙さん(台湾/1997-99年/東京城西RC)は、「例会に出席する中で、『ほんの少しでもいいから、自分も何か人の役に立つことができたなら』と思うようになりました」。2000年6月、初任給から貯めてきた15万円を当会に寄付しました。

元奨学生の寄付について学友委員会では、学友による返礼と貢献の一つとして、今後も把握に努めることになりました。学友の寄付をご送金の際は、明細にてご連絡ください。

3. 活力あふれる中華民国扶輪會(台湾学友会)総会

1月12日(土)、2001年度台湾学友会総会が、台北市内の来来シェラトンホテルで開かれました。台湾に在住する米山奨学会のOB/OG約130名が集まりました。出席者は産業界・教育界・行政機関の重鎮として活躍する先輩、作曲家・画家として台湾芸術界の話題の人達、日本留学を終えて帰国した新人など、多彩な顔ぶれでした。

総会は来賓RI副会長黄其光氏のあいさつで始まり、金子千侍氏(米山奨学会学務委員長)と宮崎幸雄(事務局長)が日本のロータリアン、学友会のメッセージを伝えました。議事は、扶輪米山會理事長許邦福氏(華城電機公司社長)の議長により進行しました。

総会のハイライトは、SY-A奨学金*の期間を終えて帰国した呉榮杰氏(早稲田大学)、鄭陸霜氏(東京外国語大学)、鐘起恵氏(東京大学・NHK)の報告でした。「今回の留学で得た日本人との出会いは、これから続く日台協力・共同研究の礎を確かなものにした。そして、日本で発見した台湾文化のアイデンティティの確立に寄与したい」と感動的な報告が、参加者のSY-A奨学金に対する評価と期待感を高めました。SY-A奨学生の選考委員長徐重仁氏(台湾セブンイレブン社長)は「SY-Aは日台関係の新時代を象徴するもので、学友会活動の中核となる確信を得た」と語りました。(宮崎)

*SY-A奨学金:海外学友会と共同で募集・選考を行う特別米山奨学金。上級研究員が対象。

(財)ロータリー米山記念奨学会 担当:大庭^{おおば}・三宅^{みやけ}
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館ビル8階
Tel: 03-3434-8681 Fax: 03-3578-8281